

社団法人

長崎青年協会会報

2月号

NAGASAKI YOUNG GENERATION ASSOCIATION



社団法人
長崎青年協会憲章

我々は会員の団結と

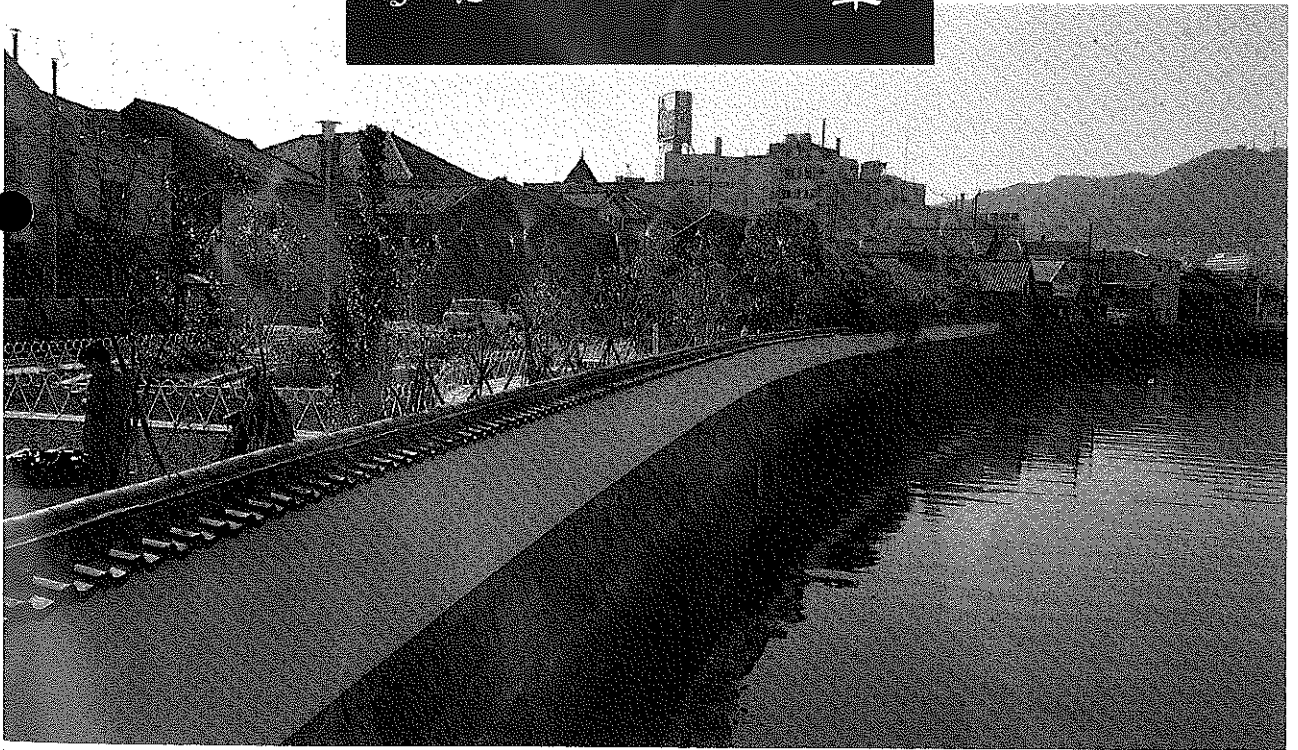
相互扶助の精神の基に

自己の建設と

会員の親睦を図り

もって地域社会の発展に

寄与する事を目的とする



出島

1月臨時総会開催

日時：平成2年1月22日
場所：ホテルニュー長崎

会長挨拶

会長 野上 林八郎



さて、去年の世界状況は10年間の出来事がまるで昨年一年間で起ってしまったのではないかというほどの激動の年でありました。また国内におきましては消費税の導入に始まり、リクルート問題、参議院選挙における与野党逆転など、また我々の問題としましては各企業における深刻な人手不足、人件費高、時給高、それに銀行金利が高くなるのではないかと思います。昨年以上今年は、気を引き締めてあたっていく年だと思います。会員の皆様も充分経済の動き、世界の動きに注意されて今年一年間、頑張って、頂きたいと思ひます。

さて、青年協会活動におきましては、去年7月に行なわれた留学生の集いにおきまして、一般市民約90名の参加を持ちまして、留学生と長崎市民の言葉の障害を乗り越えた交流の場を提供できました。また7月後半の海のフェスティバルでは、初めて長崎青年協会と青年会議所が1つの事業に協力し合えることが出来ました。11月に入りますと、旅博の意識の向上を目的とするために青年協会が各団体に協力を呼びかけまして、旅博協会、旅博を支援する市民の会、それに一般参加約1700名の協力により旅博の3つのゾーンの清掃活動を行ないました。去年は会員皆様の協力のおかげで青年協会が一般に注目された年であったと思ひます。本年度あと残された期間、内部充実を計り、それと共に新入会員に対する協会憲章の浸透を計っていきたくと思ひます。

さて、青年協会も22年度が始動しはじめています。田代次年度会長のもと新理事も決まっております。本日の臨時総会で皆様に御紹介していただきますが、次年度も今年度以上に忙しくなると思ひますが、会員皆様の御協力のもとで田代次年度会長を盛り上げて頂いて、会員が一つの目的に一緒になって、行動出来るように青年協会を作っていくて頂きたいと思ひます。

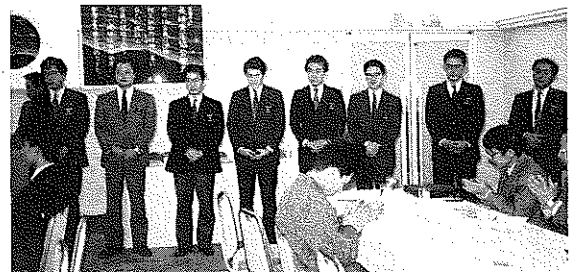
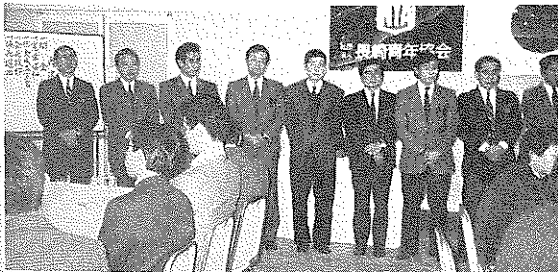
平成2年1月臨時総会報告

- 総会成立宣言 出席62名 委任状11名
総数73名 総会成立
- 一、議長 中村 善人君
 - 一、議事録作成人 岩満 克弥君
 - 一、議事録署名人 嵩下 恭一君 山本 郁雄君
- ◆議事
第一号議案 次年度理事選出及び承認の件
次年度会長 田代 博昭君より新役員及び新理事

の発表が行なわれました。(詳しくは後記に付き省略)平成2年度に向う、フレッシュな顔ぶれが揃った後、盛大なる拍手をもちまして承認されました。以上をもちまして第一号議案が可決されました。

よろこび

- ◆平成2年度新理事の皆さんよろしくお願ひ致します。
- ◆福島 聡君 長女誕生 可菜実ちゃん
- ◆和田 正信君 次女誕生 あかねちゃん
- ◆野上林八郎君 長崎新聞に掲載(会社のPRも出来て)



新役員・新理事のみなさん(例会場にて)

||||| 講師講演 |||||

中国文化和長崎

歴史文化協会事務局長 江口淳二氏

日本と中国というのは「一衣帯水」という言葉をつかいます。よく使われているのが中国と長崎は、東シナ海を隔てて、非常に近いところであるから、仲よくしないといけないと、解釈されていますが、本来の意味から少しはずれているようです。どういう意味かと申しますと本当は非常に遠いわけです。もともとこの言葉というのは、隋の文帝という人が最初揚水江の北の方を統一しました。揚水江を隔てて、南の方には、陳という国があったわけです。この陳の国の王様が非常に悪政をしており、人民が苦しんでおり、一日も早く、隋の統一国家を作らないといけない。ところが、北から南に行く為には、揚水江という大障害があるわけです。

しかし南の陳には、文帝がまっているのでこれを克服して、統一しないといけない、揚水江の大きな障害を“一つの帯みたいな小さい幅にして”克服して統一を果す、というところからうまれたのが「一衣帯水」ということなのです。ところが今は、非常に近い仲とそういう風に解釈されてるわけですが、実際は非常に障害が大きく距離は遠いけれども、それを一つの帯みたいに小さく考えていかなければいけないというのが語源なのです。

長崎には、移民族の支配を嫌った漢民族の人達が亡命してきた。そういう人達は長崎の人達と同宿していました。唐船が入ってまいりますと、長い航海をしますので、非常に船が痛むわけです。船には竹で編んだ帆があるわけですが、この帆の細工の修理をしていた人が多く住んでいた所が籠町です。そのとなり船大工町、船の大工さんがおられたところ。そのとなり本石灰町「石灰町」というのは、長崎の人達以外は、まず読めないでしょう。“モトセツカイ”とか読んでしまいます。中国の人達の発音が、そのまま長崎の人の発音になったわけです。船の底の水のもったりするところを修理するそういう人達が住んでいた。今は、思案橋といいますがその頃は川口町というわけです。海岸だったわけです。そのところに、この“シツクイ”を荷上していたんですね。

元禄の頃、人口5万人の長崎に中国から渡ってくる人が年間1万人ぐらいといわれている。航海してくる為、女性・子供・老人がいな。いわゆる青少年の人達が渡ってきたわけです。宿は民間の人達の家にお世話になる。お世話になったら、

何か御礼しないといけないというわけで、たとえば砂糖とかの貴重な物をやったものですから、長崎の人達は、食うに困らず御礼にもらうわけですが自分で使わずに、長崎に集まった全国の商人に横流しするわけです。そうすると3代は左うちわであった。その為、長崎の人達は、“うちにきてくれ、きてくれ”となった。中国は、日本より程度が高かったから、非常に中国人を大事にしたわけです。

1689年ぐらいに唐人家敷ができた。だいたい坪数が1万坪ぐらいです。出島は約3,000坪です。唐人家敷より外に出る時は、奉行の許可をもらわないといけない、その為、唐人家敷の中では、故郷中国を偲んで、いろんな事をやりました。たとえば龍踊りというものも長崎に伝わった一つであります。唐人家敷跡には、今も残っている土神堂というものがあります。土神というのは、家敷神ということで家を守ってくれるというわけです。長崎の人のお墓には、かならず土神と赤い文字で、書かれたものが奉っておいてあるはず。他にはない長崎独特の事です。おまけに中国式でいいますと、金もうけをさせてくれる。どういう事かということ、土の中から、金がうまれるということらしく中国人は“土”を大事にしたらしい。数の中では、三という数字を聖なる数にしていた。そして、三と三を掛けあわすと無限をうみだす“九”これが日本に伝って来て、結婚式の“三三九度”の盃になり、旧暦の九月九日に、九がかさなる最高の日に、重陽の節句ということで大事にしました。それが長崎の“くんち”です。

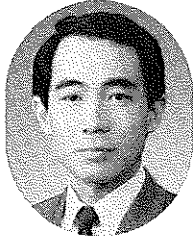
以上述べてまいりました様に、中国の文化が長崎に密接に影響を及ぼしていると言えるでしょう。



熱演中の江口先生

卒業を間近にして

江村大洋



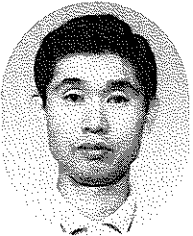
昭和48年10月、24才でこの会に入会以来、17年の永きに渡り存籍させて頂いて青年協会を卒業するにあたり、感慨無量のものがあります。まさに私の青春

そのものであります。今この17年間の色々な出来事が頭の中を駆け巡り、懐しく思い出しています。入会后初めての例会で緊張して自己紹介をした事、敬老観劇会、プロ野球オープン戦や野球教室、「みんなで築こうきれいな長崎」、「みんなで盛りあげよう長崎くんち」、「海フェス」、「サマーフェスタ」、「留学生の集い」等の活動で会員と共に考え汗を流した思い出など数えれば切りがあり

ません。又理事として期待されながらたいした仕事も出来ずに先輩から叱られた事なども懐しく思い出されます。私にとっての最大の思い出は何と言っても第20代の会長を経験させて頂いた事です。1年間会員の皆様の暖かい協力を得て、無事にその責任を果す事が出来ました。新らためて感謝したいと思います。

私は協会活動を通じて、数多くの先輩や友人を得た事を私の人生の中で最大の財産だと思っています。又郷土長崎を愛する気持は、このような活動の中からより確実なものになっていくものと思います。どうか現役の皆様も協会活動に責極的に取り組み、自己の研鑽と郷土愛を高め、会員の団結で今後益々青年協会が発展することをお祈り致します。

江島寿明



私が入会したのは、協会10年目の節目の年でありました。その時はまだ私自信卒業という事は考えていませんでしたし、その事もまだ遠い事のように思っていました。

それが第21年度3月をもって卒業という事になったとき、あらためて青年協会のすばらしさにふれたみたいな気がしました。

私が入会した時はちょうど10周年で、青年協会にとって大きな節目で事業が势力的に推進されていて、新人の私にはただびっくりするばかりで先輩方にただついていくだけでした。

例会場も今のように広い会場でなく20~30人がはいる小室で、今思い出せば例会がはじまるまでテストがあって、漢字の書き取り、社会一般常識のテストをB5判ぐらいの問題用紙に答えたのを思い出します。

協会での思い出は私にとっては青春の思い出で

あり、人生においても大切な思い出の一つであるようです。事業も会員全員でアイデアを出し合い、独りの力では到底成し得ない事を会員で成し得た時の喜びはまた格別のものでした。その中でもインド魔術団に協会で行き組んだとき、こんな大きなイベントが本当にできるのだろうかと思いました。それこそ会員全員がチケット販売、会場設営と協会の全エネルギーを結集し、2日間の公演にそなえたのですが、当日台風の為2日間とも大雨で観客が心配でしたが、大多数の入場者があって会員みんな熱くなる思いがしたのを昨日のように思い出しました。

このような貴重な体験、仕事以外に熱く燃えるものができた事は本当に協会に入会してて良かったと思います。永い在籍をふりかえればまだまだいろいろな事が思い浮かびます。積極的にいろいろな活動に参加する事がチャーターメンバー、O.B、会員相互親睦と自己の建設につながるのだと思います。

最後に協会のみなさん本当に永い間ありがとうございました。

馬場正勝



皆様こんにちは、いかがお過ごしでしょうか…。

卒業をまじかにしての感想との原稿依頼でしたが、在籍中の流れを少し書かせて戴きます。

徳本知弘様ととにかく面接だけ受けてくれるということで、昭和58年6月に入会して以来沢山のひと知り合い、協会事業をどうしてたくさんの経験を得ることができました。

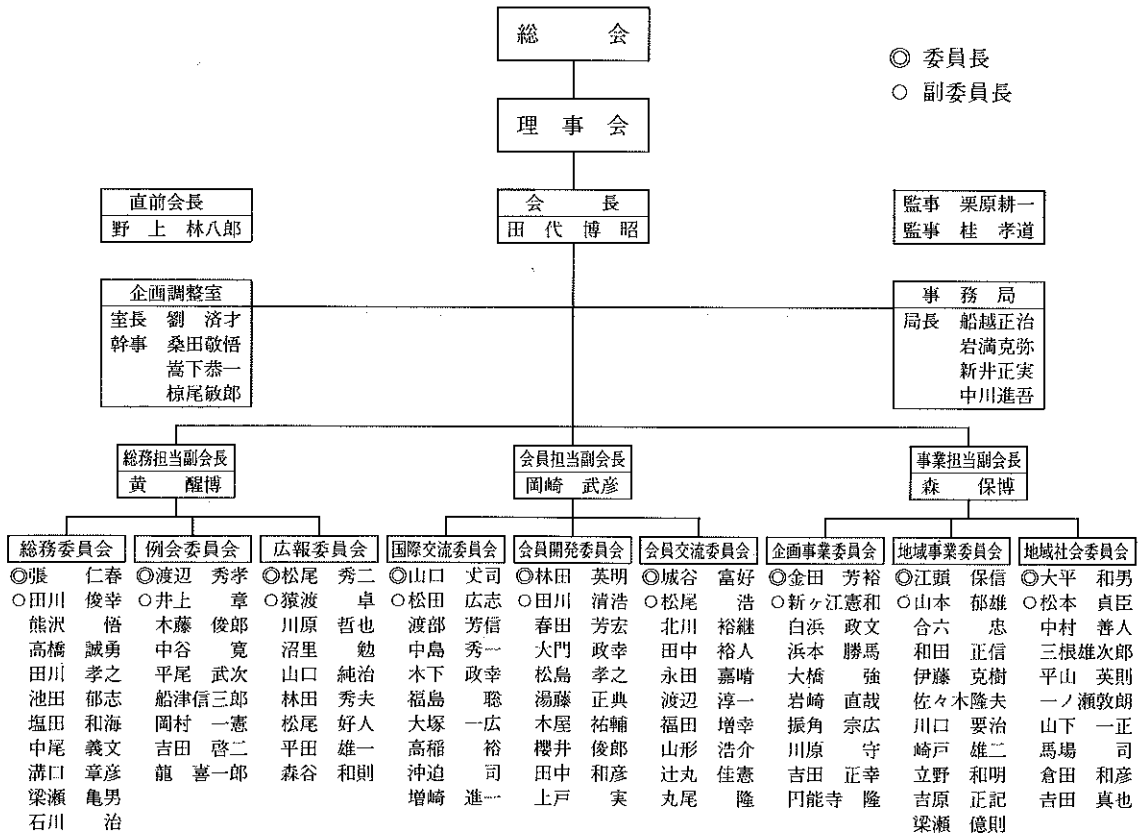
15周年の時に入会し最初の広報委員会では例会の時に録音したテープを朝の3時過ぎまでかかって原稿にしたこと(この時はアウーなどを一言一句漏らさず書いたため徳本副委員長がまとめ直して二度手間をかけた)、例会委員会で司会をさせてもらったときの緊張、会員開発委員会では

田代委員長のやる気と資料による説得力+指導力を肌で感じ、広報委員会では委員会メンバーの協力の有り難さを教えられ(月に3回の委員会を行い事務局で夜の11時過ぎまでかかったこともあり随分とクレームもありましたが毎月10日発行が達成できました)、総務委員会では記録保存とノウハウの整理の為 BOX FILING を行い先輩方を身近に感じる事ができました。20周年の年には総務担当副会長として20周年記念誌に参画できました。そして最後となる今年は監事として全体を見ることができました。その外にもゴルフ同好会幹事や人権擁護委員等を経験させて戴きました。

短い期間では有りましたが、私にとりましては貴重な経験となるものばかりで今後の私の宝となるものと痛感致します。有り難うございました。

末筆ながら青年協会に感謝致しますと共に皆様のおますますのご活躍を祈念致します。

1990年度 (社)長崎青年協会組織表



2月例会案内

市川森一氏と語る会



長崎旅博覧会プロデューサーで、テレビ、映画、舞台等の脚本でご活躍されております、市川森一氏をお招きして来る2月21日(水)午後6:30より、ホテルニュー長崎に於て定時例会を開催致します。現会員は勿論、奥様方、O.B、O.Bの奥様方、多数の御参加をよろしくお願い致します。簡単ですが下記にプロフィールを掲載させていただきます。

(略 歴) 昭和16年 諫早市に生まれる 47才 (日本大学芸術学部卒)

長崎旅博覧会プロデューサー 日本大学芸術学部講師 長崎ウエレスヤン大学講師

- 主なテレビドラマ作品(脚本) 傷だらけの天使、黄金の日々(NHK大河ドラマ)、港町純情シネマ(芸術選奨文部大臣新人賞受賞)、淋しいのはおまえだけじゃない(第1回向田邦子賞・テレビ大賞)、明日、悲しみだけが夢をみる、親戚たち、面影橋・夢いちりん、伝言、異人館の女。
- 映画 異人たちとの夏
- 舞台 黄金の日々(歌舞伎座)、ANZUCHI・あづち(銀座セゾン劇場)
- 出演 NHKビデオギャラリー(司会)、おはよう!ナイスディ(コメンテーター)

新入会員紹介



えんのうじ 円能寺 隆君

S 33. 5. 6生 (31才)

勤務先 (有)円能寺工務店 長崎市寺町64

TEL 26-7477

現住所 長崎市新大工町1-5 大野ビル501号

TEL 25-4714

趣味 スポーツ

紹介者 永田嘉晴君

配属 会員開発委員会

好評につきクイズ第2弾断行

- 問1 旅博のイメージポスター用イラストを描いた本県出身の長岡秀星氏はこの出身でしよう。 ①五島 ②対馬 ③壱岐
- 問2 先月26日に長崎自動車道が全線開通し、念願だったハイウエー時代となりましたが、未開通だった武雄北方~大村間の距離は何kmでしょう。 ①38.1km ②39.1km ③42.195km

※同封しました応募用紙に答え、氏名をご記入のうえ2月例会場にて、設置のご意見箱に投函して下さい。正解者の中から5名の方に粗品を進呈します。尚、前号の正解は、問1、市民病院裏通り、問2、ちゃんぽんでした。

旅博準備委員会設置

今年の旅博に向けての準備の目的で旅博準備委員会が設置されました。メンバーは次のとおりです。

- 劉 濟才・桑田 敬吾・船越 正治・森 保博
- 大塚 一広・椋尾 敏郎・熊澤 悟・伊藤 克樹
- 船津信三郎・岡村 一・嵩下 恭一・岩崎 直哉
- 松本 貞臣・松田 広志

新人研修日程決まる

- 2月24日(土曜日) 新人研修準備会開催 7:00PM.~
- 2月25日(日曜日)~3月9日(金曜日) 新人研修準備期間
- 3月10日(土曜日) 新人研修実行日

編集後記

春よ来い、早く来い…。まだまだ厳しい寒さが続いています。皆様いかがお過ごしでしょうか。さて、現広報委員による広報誌も残すところあと2回となりました。私自身早いもので入会後9ヶ月が経ちました。振り返ってみますと作成、編集などなんの役にもたってなかったような気がします。次年度の役員、各委員長も決まり、また新しい(?)顔ぶれで活動されていくことでしょう。次年度の広報誌はより以上素晴らしいものが出来上がるのだと思います。(桜井)